



2021年6月末の預金・貸出金動向(速報)

— 信用金庫は預金4.9%増、貸出金4.4%増とさらに鈍化 —

井上 有弘

ポイント

- 2021年6月末の全国254信用金庫の預金残高の合計は、159.7兆円、前年同月比増減率は4.9%増となった。貸出金残高の合計は78.4兆円、増減率は同4.4%増となった。
- 預金者別・貸出先別データが把握できる21年5月末までの動向をみると、法人預金は、同16.6%増と前月4月の同23.2%増から大きく鈍化した。貸出金のうち企業向け運転資金は、同19.6%増と、前月4月の同24.7%増から鈍化した。
- 銀行業態の動向をみると、全国銀行110行の預金合計は、857.3兆円、前年同月比で4.3%増となった。貸出金合計は、533.3兆円、同0.4%減となった。資金繰り支援の一巡で、全国銀行合計の貸出金残高は、前年同月比で減少に転じた。

1. 2021年6月末までの預金・貸出金動向

本稿では、2021年6月末までの信用金庫および銀行の預金、貸出金動向を確認する。

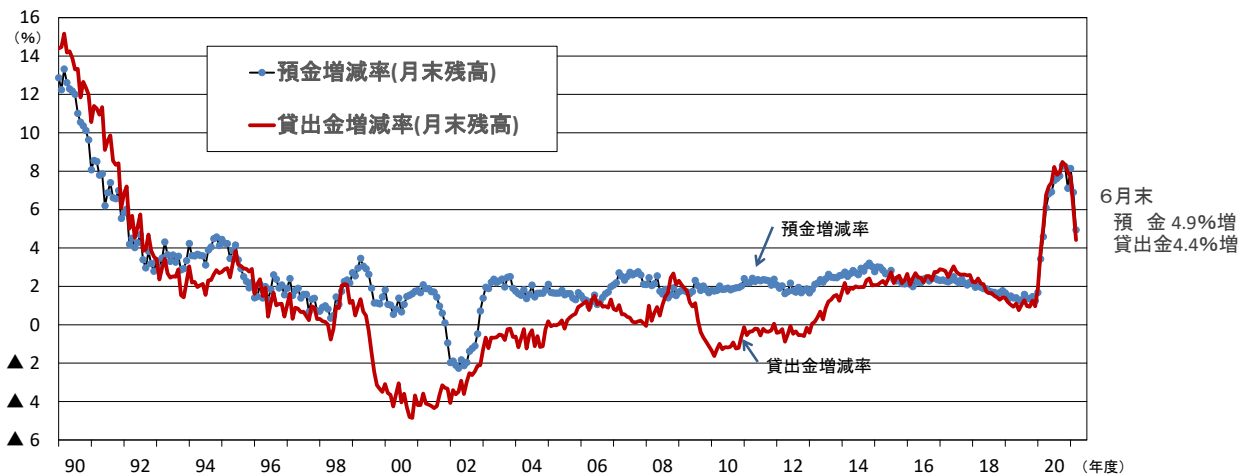
全国254信用金庫の6月末の預金残高の合計は159.7兆円、前年同月比増減率は4.9%増となった(図表1)。貸出金残高の合計は78.4兆円、増減率は同4.4%増となった。前月5月末の増減率は、預金が同6.8%増、貸出金が同6.1%増であったので、前月と比べてそれぞれ1.9ポイント、1.7ポイントの鈍化となった。

昨年春からの新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出・営業自粛等の影響から、各信用金

庫は、中小企業向け資金繰り支援を積極的に行ってきた。1年前を振り返ると、民間金融機関による実質無利子・無担保の制度融資の取扱が20年5月に始まると、貸出金残高が急増した。預金については、こうした資金繰り資金の預金口座での滞留のほか、一人一律10万円の特別定額給付金の支給が昨年6月中に大きく進展するなど、各種給付金の支給が進んだ。

前年同月比でみた場合、こうした前年の急増から1年が経過し、急増の影響が一巡したといえる。このため、信用金庫の預金、貸出金とも、5、6月と増減率の鈍化が進んでいる。

(図表1) 信用金庫の預金・貸出金増減率の推移(月末残高の前年同月比)



2. 預金者別・貸出先別の動向

預金者別にデータが把握できる21年5月末までの動向をみると、預金全体の約21%を占める法人預金は、前年同月比で16.6%増となった(図表2)。昨年7月以降は、同20%を超える増加率が続いていたが、前月4月の同23.2%増からは大きく鈍化した。預金全体の約73%を占める個人預金も、同3.6%増となり、前月4月の同4.1%増から鈍化した。

同様に21年5月末までの貸出先別の貸出金動向をみると、企業向け運転資金は、同19.6%増と、前月4月の同24.7%増から鈍化した(図表3)。企業向け設備資金については、20年11月以降、個人向け貸出については21年2月以降、マイナスの増減率が続いている。

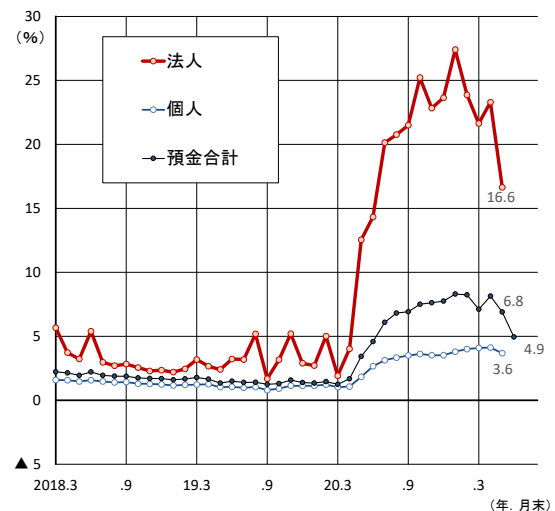
3. 業態別の預金・貸出金動向

銀行業態の動向をみると、全国銀行110行の預金合計は、857.3兆円、前年同月比で4.3%増となった。貸出金合計は、533.3兆円、同0.4%減となった。前月5月末の貸出金の増減率は同0.5%増であったので、資金繰り支援の一巡で、全国銀行合計の貸出金残高は、前年同月比で減少に転じた。

業態別にみると(図表4)、都市銀行の貸出金は、5月末に同2.0%減と38か月ぶりに減少に転じており、6月末は同3.3%減と減少幅が拡大した。

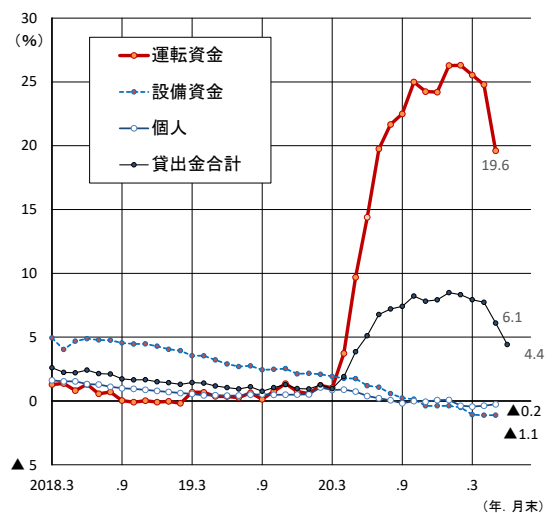
※「信用金庫地区別預金・貸出金(残高)」を信用金庫に還元しております。併せてご活用ください。

(図表2) 預金者別預金動向(前年同月比)



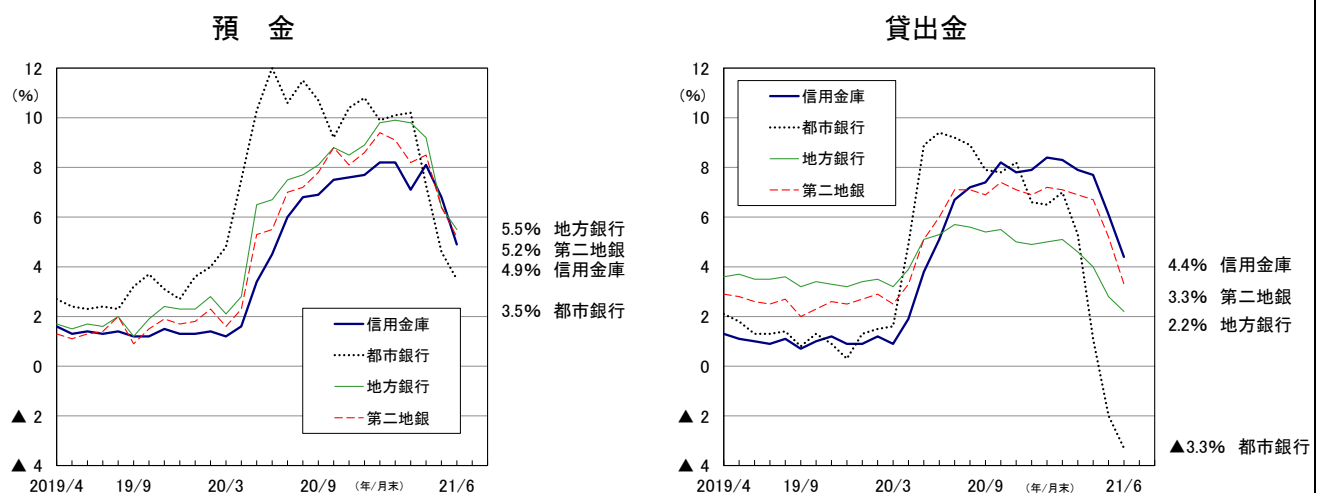
(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表3) 貸出先別貸出金動向(前年同月比)



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表4) 業態別の預金・貸出金動向



(備考) 全国銀行協会資料等より、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。